

SHINWA WALK 26

高砂山車伝説

伝説  
どろ歩き  
賢木立て  
大山小山で  
技競う  
今は昔の  
山車競演



ゼウスとヘラの息子・アレス

娘・ハルモニアが心の支えに

山車の競い合いの話でしたが、ギリシャ神話で戦いの神といえば、アレスです。珍しくいってはい失礼ですが、ゼウスが正妻・ヘラとの間に作った息子です。アレスの双子の妹・エリスも不和の女神と暴れん坊の2人。たまに正妻と作った子供がこれじゃあ、頭を抱えたくります。

しかも、浮気相手との子供がペルセウス、ヘラクレス、エロス、アポロン、ヘルメス、ミノスなど勇者と賢者揃い。浮気に走るゼウスの気持ちも分かります。

アレスは気性が荒いだけの乱暴者。闘争、戦闘、戦争以外にはこれといった楽しみも持たないため、神々の間でも嫌われ者でした。アレスと親しく付き合ったのは冥界の神・ハデスと双子の妹・エリスくらいでした。



祭り当日に公開される高砂山車には、能人形が2体(尉と姥)飾られる。

国重要文化財の本殿

往時を偲ぶ高砂山車も

富部神社は、現存する尾張造りの神社では最古の建造物で、本殿は昭和32年(1957年)に国の重要文化財に指定されています。平成10年(1998年)5月には、平成7年(1995年)1月から始まった本殿の解体修復工事も完了し、創建当時さながらの桃山様式のつややかな外観がよみがえりました。

富部神社の高砂山車は、享保12年(1727年)に製作された山車で、昭和48年(1973年)2月1日に名古屋市文化財に指定されています。型式は、津島型で、祭神を津島神社から分祀していることから、この型を取り入れたと思われれます。

巨大な4つの車輪に台座を備え、この上に3層のやぐらを組み上げ、3階部分にさらに展望式屋形をすえ、能人形(能面をつけた高砂人形)2体(尉と姥)を飾り、背景には六尺あまりの青松を添えたという、豪壮で華麗な山車です。幕は、羅紗地に金糸で刺繍を施した絢爛豪華な幕で、尾張徳川家の葵紋入りです。

高砂山車は、かつてご当地の祭りでその勢力を競い



合った「大山2輛(田中、大瀬子)、小山6輛」のうち的小山の一つ。東海道で2輛の山車がすれ違う時などにそれぞれの技を競い合ったといわれています。しかしこれも今は昔物語。残念なことに、高砂山車が、大山・小山の中で現存する唯一の山車となってしまいました。

往時の祭りは、神楽囃子にもぎやかに氏子たちが山車を曳き回し、練り歩いたもので、いなせな祭り男が、庇の上で籠を持って飛び上がりながら、音頭をとった雄姿も語り草となっています。

しかし、現在は、祭り当日に倉庫の扉を開け、由緒ある高砂山車に能人形を飾り付けて展示するのみになっています。

現在は3階部分が外されていて、能人形2体は2階部分に飾られます。しかし、車輪の損傷も進行し、山車の移動は不可。それだけに、山車の修復が望まれています。



※今回は七里の渡し伝説について特集します。お楽しみに。

■写真/Kiyoshi K ■イラスト/Rei ■取材文/Icarus